

歴史探 羈旅日和
鵜ノ尾崎灯台

新緑に 白亜輝く 鵜ノ尾崎

鵜ノ尾崎灯台は、1953 年に福島県相馬市の鵜ノ尾岬の高台に建てられ、紺碧の海と松の緑のコントラストが美しい白亜の灯台。 灯台の周辺は松川浦県立自然公園に指定され、太平洋と松川浦を望むことができる。灯台までの遊歩道があり、近くにはカゲスカ海岸を望む展望デッキも整備されている。

相馬港を行き交う船を見守っているこの灯台は、東日本大震災の津波被害により、一時期は乾電池式の仮設灯火を使用していたが、現在は電源が復旧し、遠くの海まで光を届けている。

この風光明媚な松川浦と太平洋を望める高台に、4 月 28 日、新たな観光スポットとして「松川浦恋人岬展望台」を造り、恋人たちのデートスポットとして人気を博している。

鵜ノ尾崎灯台周辺には、散策コースが整備されているほか、ロマンチックな絶景が点在している。また、近くにある夕顔観音が縁結びの御利益があるとされることも踏まえ「愛を語らう場」としての物語を持たせた美しい展望台を設備した。

展望台はハート型のオブジェの他、白いブランコやベンチを設置し、長く滞在できる空間づくりを意識している。

灯台の近くには慰霊碑がある。1986 年 6 月に海難事故に遭い、処女航海で沈没した民間海洋調査船「へりおす」の犠牲となった 9 人の乗員を祀っている。

「海員だより」